

June 10-14, 2016

The 76th Scientific Sessions of the ADA

(New Orleans, LA)



野見山 崇 Takashi Nomiya

福岡大学医学部内分泌・糖尿病内科 准教授

2016年6月10日～14日まで、米国・ニューオーリンズにて第76回米国糖尿病学会年次学術集会が開催されました。今回の学会に参加して興味深かったトピックを中心にレポートいたします。

清野 裕先生が本年度の Harold Rifkin Awardを受賞

今回のADAにおける日本の糖尿病学にとっての最大のトピック。それはやはり、清野 裕 先生（関西電力病院）が“Harold Rifkin Award for Distinguished International Service in the Cause of Diabetes”を受賞されたことです。清野先生がこれまでに残されてきた功績の数々については言うまでもありませんが、今回のADAにおける清野先生のAward受賞は日本人として初めてのことであり、極めて偉大なことです。受賞セレモニーのビデオメッセージで清野先生は、「日本は“science”は進歩しているものの“society”としてはpoorであった。さらにアジア全体に目を向けると状況はよりpoorで、足壊疽から切断にいたっている人が何人もいるような状況をなんとか打破していきたいという気持ちで取り組んできた」とおっしゃっていました。

この言葉を聞いて私自身のことを振り返ってみました。ついつい「インパクトファクターが〇〇点」ということに目が行きがちであったことに気づき、それよりも糖尿病診療に携わる者が“society”として一丸となって患者さんとともに糖尿病に立ち向かっていくことこそが、実際に患者さんにとっては大切なことであると改めて感じました。そのような思いのもとに取り組まれたご功績が称えられて今回の受賞となったことは、日本糖尿病協会にとっても大きなブレイクスルーであり、幹事を務める1人として、心より光栄であると感じました。

国際学会だからこそ味わえる 価値観を変える経験

さて、今回のADAには当教室から大学院生3人を引率しての参加となりました。彼らは今回が初の国際学会への参加。渡航前には「とにかく楽しんできて欲し